

安心安全な暮らしづくりPT <防災に関する研究>

1 実際の災害をイメージした防災教育の推進

【幹事：熊本県】

<現状・課題>

被災経験がない個人等は、災害の特徴(前兆、被害の形態)や災害が起きたときの自身や家族の行動について、イメージすることが難しい。

地震のメカニズムや災害の歴史等を学ぶ機会が不十分であり、災害リスクの理解が進んでいない。

耐震化、家具の固定、早期避難等、「命を守る」防災意識の向上が必要。

地域、企業、学校、家庭等、様々な主体による実災害をイメージした防災研修、防災訓練の実施が必要。

<うまくいかなかった事例>

平成30年7月豪雨の倉敷市真備地区の浸水被害は、ハザードマップで示された浸水想定区域と概ね一致していたが、避難が遅れ、犠牲者のほとんどが屋内で被災した。(土砂災害での死者のうち、約9割が土砂災害警戒区域内での被災)

過去に熊本で大きな地震が発生したことがあるにも関わらず、「熊本では地震が発生しない」と考えていた方が少なからずおり、災害リスクの理解(災害の伝承)が不十分であった。(防災に関する意識調査に関し、水・食料の備蓄や家具の固定等、日頃の防災意識が低い)

<求められる対応>

<行政(県・市町村)>

関連資料や人材等の情報を収集・情報発信し、防災教育を推進。学校や社会教育の現場においても活用。

子供の頃から地域の災害リスクを知り、命を守る行動(避難)を実践的に学べる防災教育の充実

<家庭・地域等>

自主防災組織等が中心となり、地域において災害リスクを把握し、地域住民自ら危険を判断したり、近隣住民へ避難の呼びかけを行うなどの自助・共助の意識醸成

<優良事例 / 先進事例>

熊本県では、災害関連の写真、文書などを収集し、ホームページ上で公開。教育委員会が副読本の素材として活用。

「くまもと防災教育月間」を定め、学校の実態に応じた防災教育の取組を推進。

災害伝承
・福岡県では、「防災ハンドブック」を作成するとともに、教訓編として、九州北部豪雨や熊本地震における被災者の体験談を掲載し、県民に対して広く啓発。



イザ！カエルキャラバン
・長崎県大村市では、防災NPOと連携し、防災知識が身につくイベントを実施。「防災をもっと身近に、もっと楽しく」をテーマに、家族や友人と楽しみながら学べるイベント。



たのしい防災体験で
カエルポイントを貯めよう！

防災体験に参加しても、「カエルポイント」がもらえます。楽しく学んで、ポイントをためましょう。



イザ！カエルキャラバン ～水消火器的当てゲーム～

< 課題解決策案 > 九州山口災害アーカイブネットワークの形成

< 取組内容 >

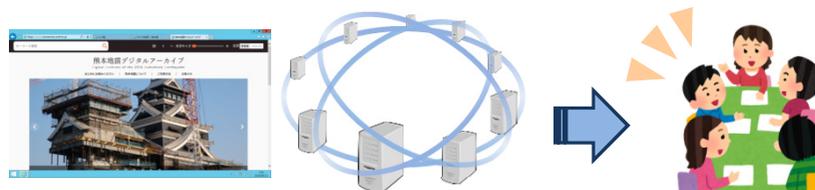
九州各県及び山口県における過去の自然災害の事例を踏まえ、災害関連の写真、文書などをホームページ上で公開する。さらに、九州各県HPの相互リンクを設置し、ネットワークを形成するとともに、災害関連の写真、文書などを地域での防災学習や教育現場において活用する。

< 期待できる成果 >

近年の大規模な災害を確実に後世に伝え、各家庭や地域における「自助」「共助」の取組を促進する。

< 取組に向けて >

今後、新たに起こった災害に対する教訓等を追加していく。



< 課題解決策案 > 「九州山口災害伝承サポーター」派遣制度の創設

< 取組内容 >

九州・山口における災害の教訓を十分に伝承するため、災害を経験した自治体職員等を中心とした「九州山口災害伝承サポーター（以下「サポーター」という。）」派遣制度を創設する。

九州・山口の災害事例を踏まえた防災教育を行うため、県・市町村などの派遣依頼に応じてサポーターを派遣する。

派遣依頼は直接派遣元に行くこととし、必要な経費（報償費・旅費等）は依頼元が負担する。また、派遣実績に偏りが出ないように年間上限を設ける。

< 期待できる成果 >

過去の災害対応の良くできた事例や課題等の教訓を自治体間で共有することで、九州・山口の災害事例を踏まえた防災教育の取組を促進する。

< 取組に向けて >

サポーター名簿は各県で共有し、市町村や地域等からの相談や依頼に対応していく。

